

エストニアが生んだ鬼才、作曲家ウルマス・シサスク初来日記念!

星を聴く人、 ウルマス・シサスク

*Urmas
Sisask*

館野泉とその仲間たち

[出演者]

館野泉 (ピアノ) 秋場敬浩 (ピアノ) 吉岡裕子 (ピアノ) ヤンネ館野 (ヴァイオリン)

館野英司 (チェロ) 白水裕憲 (フルート) バオバブ座混声合唱団 / 清水昭 (指揮)

ウルマス・シサスク (特別ゲスト&トーク)

【オール・シサスク・プログラム】(*印は日本初演作品)

ピアノのための組曲《銀河巡礼~北半球の星空》 Op. 10 (抜粋)

フルート、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための《上弦の月》 Op. 40 *

4手連弾のための《ソンプレロ銀河》 Op. 119 *

混声合唱のための《天空の星たち》 Op. 95 *

混声合唱のための《星たちに寄せて》(F. リュッケルトの詩による) Op. 116 *

左手のためのピアノ組曲《エイヴェレの星たち》 Op. 142 (抜粋)

2015年4月23日(木)

19:00 開演 / 18:15 開場 (プレトーク開始)

よみうり大手町ホール

(東京メトロ「大手町」駅C3出口直結)

【料金】 4,000円 (全席自由 / 当日: 4,500円)

【お問合せ・お申込み】

アーツ・アイランド Tel: 03-6914-0353 Fax: 03-6914-0586

E-mail: concert@artsisland.com

【プレイガイド】

●東京文化会館チケットサービス Tel: 03-5685-0650

●e+(イープラス) eplus.jp/

十五年前、演奏旅行に行ったタリンの街角でウルマス・シサスクに偶然出会った。初対面であり、数分間立ち話をして別れただけなのに、強く印象に残るものがあった。比較的小柄であるが逞しく精力的で、それなのに、この世界とは別のところにいて、それなら星の王子さまとでもいいが、バオバブのような怪しい姿もある。

シサスクは不思議な人だ。彼は何億もある星々にかこまれて生まれてきたのに違いない。星々の発するメッセージに耳を傾けていると、そこに宇宙の諧調が聴こえてくるという。彼の音楽はすべて宇宙の神祕に捧げられている。その響きには、神祕性、原初的な力、爆発、緊張感、透明感、そして調和や静寂の見事さと美しさにくわえて、人の心を広大な星の空間に遊ばせてくれるようなおおらかさがある。

そんな星を聴く人シサスクを首星とする我ら“バオバブ座”の何十億光年の旅路に、皆さんもそれぞれの創造の翼を自由に羽ばたかせながらご一緒頂けたらと思う。

館野 泉



館野 泉 (ピアノ) Izumi TATENO - piano

1960年に東京藝術大学音楽学部を首席で卒業。日本を代表する国際的ピアニストとして、北欧および欧州諸国、北南米、豪州、旧ソ連、アジアおよび中近東諸国において行った演奏会は3500回以上にのぼる。2002年に脳出血により右半身不随となるも、2004年には“左手のピアニスト”として復帰。2006年に左手のための作品の充実を図るため、「館野泉 左手の文庫(募金)」を設立。以降、日本はもとより、世界各国の作曲家たちによる委嘱作品を精力的に発表。2012年から翌年にかけて、左手のためのピアノ音楽の世界を一望する壮大なプロジェクト「館野泉フェスティバル～左手の音楽祭」を開催し、大成功をおさめる。これまでにリリースされたLPやCDは120枚以上および、その多くが古典的名盤として世界各地で高い評価を得ている。また、主要な著書に『ソリストの思考術～ピアニスト館野泉の生きる力』(六耀社)、『ピアニストの時間』(みすず書房)、『ひまわりの海』(栄龍堂)、『星にとどく樹』(栄龍堂)などがある。

【公式サイト】<http://www.izumi-tateno.com>



秋場敬浩 (ピアノ) Takahiro AKIBA - piano

2007年に東京藝術大学音楽学部を首席で卒業。学内において安宅賞ほか、各賞受賞。その後、同大学院音楽研究科修士課程を経て、博士後期課程に進む。大学院在籍中よりロシアに渡り、国立チャイコフスキー記念モスクワ音楽院に留学。ミハイル・オレーネフ教授の薫陶を受ける。2008年の東京・春・音楽祭(東京のオペラの森)出演を皮切りに、日本、ロシア、アルメニア、エストニアの主要都市においてリサイタルを開催。2013年、第2回コムタス国際音楽祭コンクール(ドイツ)にて第1位入賞。アルメニアやエストニアの知られざる音楽遺産の“伝道者”として注目を集め、コンサートのみならず、レクチャーや執筆などを通じた多角的な活動を行う。2004年に岡岡裕子氏とエストニアン・ミュージック・プロジェクトを結成し、様々なコンセプトによるコンサート・シリーズを展開。

【公式サイト】<http://www.takahiroakiba.com>



吉岡裕子 (ピアノ) Yuko YOSHIOKA - piano

武蔵野音楽大学器楽学科を経て、同大学院音楽研究科修士課程を修了。その後、ヴェルビエ音楽祭(スイス)、ショパン・アカデミー夏季セミナー(ワルシャワ)など、国外の講習会等において研鑽を重ねる。第1回全日本フランス音楽コンクールにて第2位入賞。2005年より作曲家ウルマス・シサスク氏との親交を深め、氏のピアノ作品の日本初演を多数行うほか、ナレーションや映像とのコラボレーションによるコンサートを行う。2011年秋、初のCDアルバム『シサスク：銀河巡礼～北半球の星空』をリリース。昨年8月には、第2回エイヴェレ国際音楽祭(エストニア)に招かれ、シサスク氏とのコラボレーション・コンサートを行ったほか、マスタークラス講師を務めた。現在、埼玉県立大宮光陵高等学校音楽科ピアノ講師。

【公式サイト】<http://yuko-yoshioka.p2.weblife.me/>



ヤンネ館野 (ヴァイオリン) Janne TATENO - violin

ヘルシンキ生まれ。国立シベリウス・アカデミーにてオルガ・バルハメンコ氏に、ルーズベルト大学シカゴ校音楽院で森悠子氏に師事。ヘルシンキを拠点とするオーケストラ「ラ・テンペスタ室内管弦楽団」のコンサートマスター、山形交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者を務めるほか、長岡京室内アンサンブル、ユーシア・クアルテットのメンバーとして演奏を行うなど、フィンランドと日本の二つの祖国を拠点として幅広い活動を展開。また、2007年にはオウルンサロ国際音楽祭(フィンランド)の日本版プロデュースを行うなど、広い視野と感性を活かしながら、音楽プロデューサーとしても活躍。



館野英司 (チェロ) Eiji TATENO - cello

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、同大学音楽学部を卒業。その後、国立シベリウス・アカデミーに留学。日本フィルハーモニー交響楽団団員、東京藝術大学管弦楽部講師、新潟大学教育人間科学部講師を歴任。また、ソリストとしてフィンランドのヨエンスー市民交響楽団、クオピオ市民交響楽団、柏崎市民交響楽団と協奏曲を協演したほか、東京文化会館をはじめ、新潟市、奥州市でリサイタルを開催。1997年には、ヘルシンキのフィンランド・ホールにて、兄の泉、妹の悠子、甥であるヤンネとのファミリー・コンサートを行う。現在、TBS子供音楽コンクール中央審査委員、岩手県胆沢町カルチャークラブ講師、新潟チェロ・アンサンブル主宰、奥州フィルハーモニー管弦楽団代表および音楽監督を務める。



清水 昭 (合唱指揮) Akira SHIIMZU - conductor

早稲田大学理工学部機械工学科卒業。指揮法をウグリン・ガポール、手塚幸紀の両氏に、合唱指揮を関屋晋氏、ピアノを三井光子氏に師事。現在は合唱指揮者として、18の合唱団の指揮および指導にあたるほか、客演指揮、講習会講師や各地コンクールの審査員も務めている。1998年、合唱団「ひぐらし」とともに全日本合唱コンクール金賞受賞。また、ポピュラー音楽の合唱編曲を数多く手掛ける。現在、東京都合唱連盟および日本合唱指揮者協会の副理事長を務める。



白水裕憲 (フルート) Hironori SHIROUZU - flute

京都市立芸術大学音楽学部を経て、同大学院音楽研究科修士課程を修了。京都音楽協会賞受賞。広島交響楽団を経て、1993年に群馬交響楽団に入団。1995年、アフィニス文化財団の研修生としてフランクフルトに留学。日本各地において演奏活動を展開し、ソロ・リサイタルや室内楽コンサートを行うほか、広響や群響の演奏会において協奏曲ソリストとして出演。現在、群馬県高崎市を拠点としつつ、演奏活動の傍ら、後進の指導にも情熱を注ぐ。

【公式サイト】http://www.geocities.jp/gso_shirouzu/



ウルマス・シサスク (特別ゲスト&トーク) Urmas SISASK - special guest

1960年エストニアのラブラに生まれる。天体観測に興味としていた祖母からの影響により、その幼少期から星々の世界に対する強い探求心を抱く。国立タリン音楽院(現・エストニア音楽演劇アカデミー)のレネ・エースベレ教授の作曲クラスに学び、1985年に卒業。同年より、エストニア北部に位置するヤネタ村にアトリエを構え、1994年には同村のマナーハウス内に“音楽と星の塔”を開設。作曲活動と天体観測の傍ら、レクチャーやコンサートを行う。主要作品として、交響曲第2番《北極星》、連作ピアノ曲集《銀河巡礼(星空)》シリーズ、合唱のための《グローリア・パトリ》などがあり、作品番号は既に150以上におよぶ。近年の作品には、館野泉氏に捧げられた左手のためのピアノ組曲《エイヴェレの星たち》や合唱曲《日本ミサ》などがあり、現在はエストニアン・ミュージック・プロジェクトの委嘱による《銀河巡礼》第4集《赤道の星空》の作曲を進行中。フィンランド・トゥルク在住。